

●北海道地方環境事務所

〒060-0808 札幌市北区北8条西2丁目札幌第1合同庁舎3階  
TEL.011-299-1953 FAX.011-736-1234

# 利尻礼文サロベツ国立公園

*Rishiri-Rebun-Sarobetsu National Park*

日本の国立公園 1

## 利尻礼文サロベツ国立公園

国立公園に咲く花

リシリヒナゲシ  
*Papaver fauriei*



画・二橋愛次郎

日本に自生するただ1種のケシ属の植物で、利尻山高山帯の岩礫地だけに生育する。7月に高さ20cmほどの花茎を数本のばし、それぞれの先端に花を一つ咲かせる。径3cmほどの、淡い黄色の花である。

生命の輝きに満ちた、花咲き誇る最北の公園



●稚内自然保護官事務所

〒097-8527 稚内市末広5-6-1 稚内地方合同庁舎  
TEL:0162-33-1100 FAX:0162-33-1101

●サロベツ湿原センター

〒098-4100 天塩郡豊富町上サロベツ8662番地  
TEL:0162-82-3232

●幌延ビジターセンター

〒098-3228 天塩郡幌延町字下沼  
TEL:01632-5-2077



エゾカンゾウ咲くサロヘツ原野



## 北辺の島と原野 華麗な花園と豊かな海



屹立するロウソク岩（利尻山頂付近）



海面から立ち上がる高山、なだらかな曲線を描く丘、広大な原野……。この国立公園は短い春から夏にかけて、花に埋め尽くされる。

お花畑のトレッキング（礼文島西海岸）

# 利尻礼文サロベツ国立公園

## 礼文島 花の浮島

利尻島とは対照的な、低い台地状の島。緩やかな起伏を描いて広がる草原は高山植物の宝庫であり、希少な種も多い。西側の海岸は切り立った断崖が連続する。



## 利尻島 北辺の秀峰

利尻島の中央に位置する利尻山は、島内から見る姿はもちろん、礼文島やサロベツ原野から望む海面からそびえ立つ姿が美しい。その意味で、この公園の風景の中心となる山である。礼文島とともに希少な植物が多い。



## サロベツ原野 地平線をつくる草原

低地における日本最大の高層湿原を有する。海岸に細長く続く砂丘林も、原始の姿をとどめている。また、ベンケ沼やパンケ沼は海を越えて渡る鳥たちのかけがえのない憩いの場でもある。



## 公園へのアクセス

稚内までは東京、名古屋、大阪、札幌から、利尻までは札幌からの空路がある。JRは札幌から特急列車がある。稚内から利尻、礼文両島までは定期船が運行されている。



# 洋上の独立峰・利尻島

## 海面から立ち上がる火山島

利尻島は稚内市の海岸から約 20km 離れた位置に存在する外周約 60km のほぼ円形の島であり、島全体が利尻山からなる。

利尻山は標高 1,721m、20 万年ほど前に生まれ、7,000 年ほど前に活動を止めた火山である。全体としては裾を長く引いた富士山型の山であるが、山頂一帯は、やせた稜線に鋭く上がった岩峰群を突き立て、深い谷が何本も走り、荒々しい姿を呈する。沢はほとんどが潤れ沢であり、山麓には湧水が多い。山麓には側火山がいくつもあるほか、姫沼・オタダマリ沼などの湖沼や湿原がある。

## 島独特の気象

海面から高山が立ち上がる利尻島には、島独特の気象が見られる。一般に風が強く、山頂に近いところは特に強い。しかし、低地では島の片側は強風が吹いていても、反対側は無風であったり、島の半分が濃霧に閉ざされていても半分は晴天ということもある。

洋上にそびえる利尻山



### Column

#### 顕著な植生の垂直分布と高山帯の低下

独立峰という特性から、利尻山の植生は標高による変化がわかりやすい。狭い平地には海岸草原があるが、少し登るとトドマツを主とし、ダケカンバなどの広葉樹も交えた針葉樹の多い森林に移行する。標高約 500m より上部はダケカンバ、ミヤマハンノキなどの林でハイマツも出現する。1,100m あたりから上はハイマツや高山植物のお花畑となる。ハイマツ帯の出現する高度をほかの山と比べると、本州中部では約 2,400m、北海道中央部の大雪山では約 1,800m であり、利尻山ではずいぶん低いことがわかる。これは、より北方にあることと、気象条件の厳しい洋上の独立峰であるためである。



# 花の島・礼文島

## なだらかな地形と海食崖のコントラスト

礼文島は利尻島の西北約8kmに位置する。東西約5km、南北約20kmあり、利尻島とは対照的な非火山性の細長い島である。全体に丘陵状の地形で、礼文岳の標高490mが最高点である。東側は海岸に向かって緩く傾斜しているが、西海岸は多くが断崖となっているため、集落は東海岸に集中している。北部にせき止め湖の久種湖がある。



巖岩展望台付近から西海岸を望む

### 海岸線から出現する高山植物群落

寒冷な気候条件である上、島の成立が古く、しかも暖地系植物の侵入がなかったため、寒地系の植物が残り、高山植生が海拔0mから出現する。花の浮島と呼ばれるゆえんである。森林は少ないが、昔からなかったわけではない。山火事で焼失したり、かつてニシン漁が盛んだった時代に燃料として切られた跡が、厳しい気象条件のために森林が再生せず、ササ原になっているところも多い。



ハクサンイチゲ



ミヤマオダマキ



チシマアザミ咲く西海岸

### 西海岸と東海岸の違い

南北に長い礼文島では、島の東西で際違った違いが見られる。西側の海岸は冬の季節風が強く海蝕崖が発達し、断崖の上の斜面は強風で雪が積もらないため草原となり、種々の花が咲き競う。一方、東海岸は冬の季節風も西海岸ほど強くなく、集落もあり人々の生活が営まれている。段丘上の斜面にはササ原が広がっている。



南方上空から見た礼文島（左側：西海岸、右側：東海岸）

### Column

#### 利尻、礼文両島の固有植物

海上に孤立する利尻・礼文両島には、長い歴史の間に独自の進化を遂げた固有の植物が多く生育する。リシリヒナゲシやボタンキンバイなどは利尻島固有種、また、レブンキンバイソウ、レブンアツモリソウ、レブンウスユキソウなどが礼文島固有種または固有変種である。このほか、レブンコザクラなど、国内での分布がごく限られている種類も多い。



- 1 リシリヒナゲシ
- 2 レブンアツモリソウ
- 3 レブンウスユキソウ
- 4 レブンキンバイソウ
- 5 レブンコザクラ



1



3



4



5



利尻礼文サロベツ国立公園のすがた

# 最北の原野・サロベツ

上空より望むサロベツ原野

## 日本に残る貴重な大湿原

サロベツ原野は、かつては南北27km、東西8km、面積14,600haに及び、北海道の湿原としては、石狩泥炭地と釧路湿原に次ぐ広さであったが、1960年代中期以降開発が進み、現在の約6,700haにまで縮小した。しかし、釧路湿原や尾瀬国立公園の尾瀬ヶ原とともに、日本に残る代表的な湿原であり、低地における高層湿原としては日本最大の広さを持つ。



広大なサロベツ原野

### 湿原の生物たち

サロベツ原野と海岸の砂丘林一帯には、エゾシカやトウキョウトガリネズミをはじめ、ツメナガセキレイ、ノビタキ、ベニマシコなど多くの鳥獣類が生息する。これまで日本では道東だけに生息していたタンチョウも、平成16(2004)年以降サロベツで営巣している。そのほかオジロワシ、チュウヒなどの希少猛禽類、爬虫類では国内では北海道北部だけに分布しているコモチカナヘビも見られる。



3

- 1 タンチョウ
- 2 シマアオジ
- 3 オジロワシ
- 4 ベニマシコ
- 5 ノゴマ
- 6 コモチカナヘビ



4



5



1



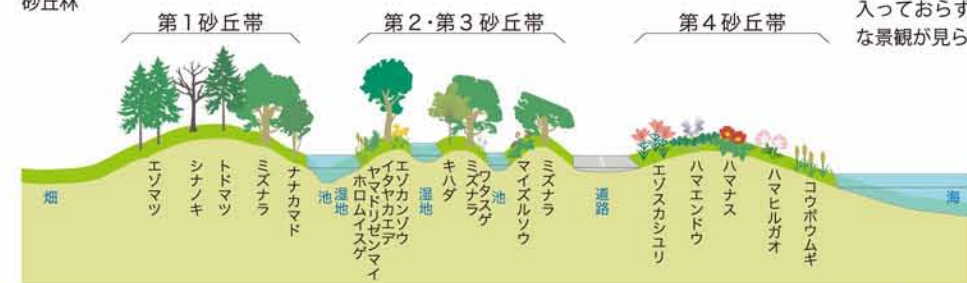
2



6



砂丘林



砂丘林の断面図

### Column

#### 湿原開発の歴史と自然再生の取り組み

寒冷な気候のサロベツ原野は、農業利用には適さないと考えられていた。北海道開拓が本格的に始まった19世紀後半から20世紀前半まで、一部で泥炭の採掘などが行われたが、農用地の開発は湿原を囲む乾燥した丘陵地におおむね限られていた。

第2次大戦終了後、引揚げ者などを対象にした入植が行われ、昭和30年代後半に入ると、大規模な総合開発事業が行われて、サロベツ放水路なども完成した。

しかし、このころから、それまで無用の土地とされていた湿原の価値が見直されて保存の気運が高まり、昭和49(1974)年にその主要部が国立公園に編入され、平成15(2003)年に拡張された。

これまでの開発事業により、排水路の開削による湿原の乾燥化とササの侵入や、湖沼への土砂の流入による環境変化などの影響が見られるため、泥炭採掘跡地の湿原再生、湿原の水位低下防止などを目的とする自然再生への取り組みが始まっている。

### 残存する海岸生態系

公園内の海岸には数列の砂丘が海岸線と平行に並んでいる。自然海岸のまま残存する部分が多く、海から陸へとつながる植生の分布がよく残っている。海岸にはハマナスやハマニクなどの海浜植物があり、海岸に面した砂丘には、強風のため枝がすべて陸側を向き、刈りこまれたように揃って低いミスナラ林がある。その内側の砂丘にはトドマツを主とし、エゾイタヤなどを交えた林があり、内陸に行くほど樹高が高くなる。砂丘間の低地には池沼や湿原があり、湿性植物が生育している。砂丘林は全体としてほとんど人の手が入っておらず、原生的な雰囲気濃い、特異な景観が見られる。



湿原の水位低下防止のための堰



上空から見た泥炭採掘跡地

# 生き物のネットワーク

## 豊かな北の海・対馬暖流の恵み

この地域の海には、東シナ海で生まれ日本海を北上する対馬暖流から分かれ、宗谷海峡を抜けてオホーツク沿岸まで達する宗谷暖流が流れている。また、全体が大陸棚の上にある比較的浅い海であるため、生物の種類が多い。



### トド、アザラシ、海鳥類の生息

この公園の海域には、冬季ゴマフアザラシなどのアザラシ類やトドが回遊してくる。ときにはオットセイの姿を見ることもある。夏季には、利尻島ではウミネコとオオセグロカモメが、礼文島のトド島ではケイマフリが繁殖する。このほか移動途中のアカエリヒレアシシギやミズナギドリ類の大群に出会うこともある。

ゴマフアザラシ



### オオヒシクイ

ヒシクイは大型のガンで、ヒシクイとオオヒシクイという2亜種が日本に渡来する。オオヒシクイはカムチャツカなどで繁殖するものが日本に渡来している。ルートはコハクチョウとほぼ同じで、カムチャツカからサハリンを経由して北海道北部に上陸し、北海道西岸を南下して本州に向かう。



コハクチョウ

### ハクチョウ類

日本に定期的に渡来するハクチョウ類はオオハクチョウとコハクチョウの2種である。このうち、オオハクチョウはシベリアのタイガ地帯で繁殖し、サハリンから主に北海道東部を経て太平洋岸を南下する。一方、より北方のツンドラ地帯で繁殖するコハクチョウは、サハリンから北海道北部に上陸し、サロベツ原野やオホーツク海岸のクッチャロ湖に入って翼を休める。そして、ここから北海道西岸の天塩川や石狩川の本・支流をたどって南下し、苫小牧のウトナイ湖を経て本州に渡り越冬するのである。春はこの逆のコースをたどって北上し、繁殖地に戻って行く。



シノリガモ

### 渡り鳥の中継地

サロベツ原野は、多くの渡り鳥の移動ルート上にあり、休息と栄養補給の場所として、重要なところである。このため、一帯は平成17(2005)年に湿地保全のためのラムサール条約に登録されている。また、周辺海域にはシノリガモなど多くの冬鳥が渡来する。

### 渡り鳥(ガン・ハクチョウ類)の主な経路



マガン

# 海に生きる人々の暮らし



## コンブ漁・ウニ漁

豊かな水産資源に恵まれたこの海域には、各所に好漁場がある。利尻、礼文両島とも、主産業は漁業であり、沿岸ではコンブやウニ漁が盛んである。

昆布は大型の海藻で、日本では好んで食用とする。利用されるコンブは15種ほどあり、この海域ではリシリコンブが採れる。コンブ漁の最盛期は8～10月で、小型船から「マッカ」と呼ばれる特殊な漁具等を用いて採取する。採ったコンブは礫質の浜の干場に広げて乾燥し、製品に加工する。また、ウニはエゾパワンウニとキタムラサキウニの2種が春から秋にかけて漁獲される。



昆布干し



昆布漁の船



ウニ漁の船

### 海岸清掃 豊かな海をまもるために

いま、日本の海岸には人が捨てた漂着物が大量に流れ着いている。これらのゴミは美観を甚だしく損ね、また、ガラスの破片など危険なものや、ペットボトルのようにいつまでも分解されずに残って、海岸の生態系に悪影響を与えるものも多い。各地の海岸では、地域の人たちが定期的に海岸清掃を行い、流れ着いたゴミをかたづけている。



元地海岸

地域住民による海岸清掃

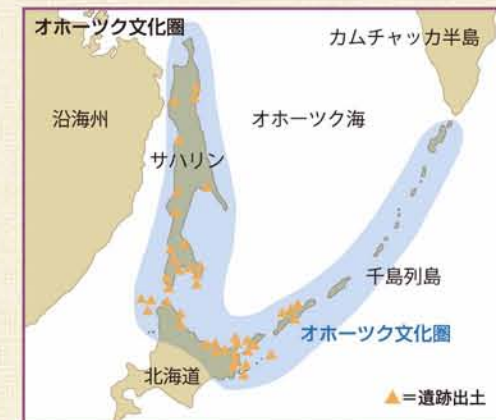
### Column

#### オホーツク文化圏の広がり

7～10世紀ごろ、北海道と東北地方北部は擦文土器に代表される文化が展開していた。しかし、このころ、北海道のオホーツク海と利尻・礼文島を含む日本海北部の沿岸には、南千島やサハリンと共通する別の文化圏があった。

このオホーツク文化圏は、流水の来る地域とほぼ重なっている。独特の文様の土器や発達した骨角器を作り、クジラやアザラシなどの猟や漁労を主に、イヌやブタを飼い、雑穀の栽培も行っていた。また、沿海州の人たちとも接触があったと考えられる。

オホーツク文化は、11～12世紀ごろには擦文文化に吸収されて衰退した。遺跡として網走市のモヨロ貝塚などがよく知られている。この地域でも、利尻島の亦稚遺跡や礼文島の香深井遺跡などから、骨角器や骨偶をはじめとするこの時代の遺物が出土している。





# ようこそ

## 利尻礼文サロベツ国立公園へ

厳しい寒さに耐え抜いてきた利尻礼文サロベツ国立公園の自然は、美しくもこわれやすい。

公園を訪れる際には、この貴重な自然を傷つけることのないようルールとマナーを守ろう。

### 利尻礼文サロベツ国立公園の歩き方

利尻、礼文両島には植物固有種、希少種が多く生育している。足元に広がるお花畑を楽しむ際も、歩道以外には立ち入らないよう注意しよう。また、植物を採ったり折ったりすることも禁止されている。いまは常識となっているが「とるのは写真だけ」というルールを守ろう。

利尻山では、登山道を外れて歩くと浸食が進み、登山道が崩落するおそれがある。利尻山登山の際は別項の「利尻ルール」を守ろう。また、湿原は踏み跡がただけで傷み、回復には長い時間がかかるため、木道のあるところでは、木道から下りないようにしよう。



### 持ち帰り

自分で出したゴミは自宅まで持ち帰ろう。捨てられたゴミを見るのは誰にとっても不愉快なもの。また、野生動物がそれを食べ、習性をゆがめたり、汚水が植生に影響を及ぼす場合もある。ゴミ持ち帰りは、心がけ次第で簡単にできるマナー。ぜひ身につけよう。

### 利尻ルール (利尻山登山のルール)

#### 1 携帯トイレを使う

携帯トイレは旅館などで購入できる。登山道の途中には使用のための専用ブースが、登山口には使用後の回収ブースが設けられている。



#### 2 スtockにキャップをつける

ストックの鋭い先端は崩れやすい土壌を掘り起こし、崩落を促進してしまう。ストックを使用する際は先端にゴムのキャップをはめるようにしよう。



#### 3 植物の上に座らない、踏み込まない

植物を傷つけないよう、また土壌の浸食を少しでも防ぐため、歩道から外れないようにしよう。

### 利尻山登山道を保全する取組み

利尻山ではスコリアという赤い土がよく見られる。このスコリアはとても脆く、登山者の踏みつけにより植生が失われた登山道は、雨や雪どけ水の流れによる浸食が進みやすい。特に利尻山上部では、登山道が大きく掘られていたり、崩壊している箇所も見受けられる。

この対策のため、地元の登山関係者と関係機関が協力し、登山道の補修を試行錯誤しながら行っている。登山の際には、利尻山の自然の素晴らしさを味わうとともに、登山道の弱さにも心を配って、一步一步を重ねるようにしよう。

### 下サロベツ自然観察路



この公園には、サロベツ原野の2カ所にビジターセンターがある。公園に来たら、まずビジターセンターに立ち寄ってみよう。地域の自然や歴史などの展示があり、常駐するスタッフの解説などを通じて、最新の情報が入手できる。また、自然体験プログラムを通じて、湿原のおもしろさを知ることができる。

### サロベツ湿原センター

上サロベツ原野の入口、JR 豊富駅とよとみから稚咲内わかさかに行く途中にある。サロベツ原野の成り立ちや湿原の仕組みなどの解説展示がある。また、湿原内をめぐる木道があり、植物や野鳥の観察ができる。



〒098-4100 天塩郡豊富町上サロベツ tel.0162-82-3232



### 幌延ビジターセンター

下サロベツ湿原の長沼の近くにある。館内にはサロベツ原野とそこに生きる多様な動植物の展示がある。また、長沼を通ってパンケ沼まで木道があり、湿原植物や水生植物、野鳥の観察ができる。



〒098-3228 天塩郡幌延町字下沼 tel.01632-5-2077  
開館期間：5～10月 開館時間：9～17時





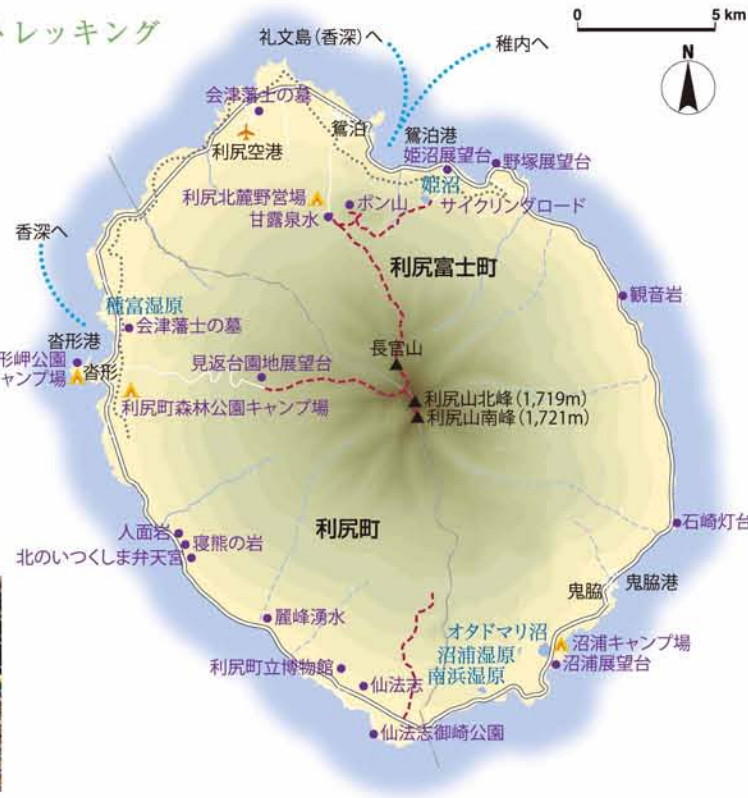
登山と山麓や海岸線のトレッキング

# 利尻島

稚内から鴛泊まで船で約1時間40分、飛行機は札幌（新千歳）から約50分。島内は海岸線を一周する道路があり、路線バスや定期観光バスがある。



- 1 エゾツツジ
- 2 イワベンケイ
- 3 イワウメ



利尻山山頂付近

## 利尻山 (1,721m)

登山道は利尻島北岸の鴛泊と西岸の沓形からあり、港のある鴛泊からのコースに利用者が多い。両コースとも登山の所要時間は約10時間。海上の独立峰ならではの展望を楽しめる。ただ、山頂付近は山体の崩落が激しく、ガレ場ややせ尾根が続くため、落石や滑落に注意して慎重に歩きたい。山頂も標高1,719mの北峰まで通行止めになっている。また、沓形コースは、三眺山から上部に危険な箇所があり上級者向きである。なお、利尻山に登る時は自然を傷つけないよう利尻ルール（P.16）を守ろう。



登山道沿いの高山植物（イワヒゲの花とエゾツツジのつぼみ）



利尻登山道から鴛泊を望む

## 姫沼

山麓の代表的な景勝地であり、鴛泊港から近い。森に囲まれた静かな雰囲気、利尻山も望める。木道があり、湖畔を一周できる。

## 鴛泊ポン山

利尻山の全貌が望める。利尻山登山口の北麓野宮場から歩道があり、姫沼に抜けることもできる。途中に日本の名水百選に選ばれた甘露泉水がある。

## オタドリ沼

島の南東にあり、三方を低い崖に囲まれている。湖岸にはヨシ、スゲ類の多い沼浦湿原が広がり、姫沼とは対照的である。北岸のアカエゾマツ林の向こうに見える利尻山は、姫沼からとは異なる鋭い姿である。約2km西には高層湿原の南浜湿原があり、木道がある。



沼浦展望台から利尻山

## 海岸

南端の仙法志御崎、西岸の沓形岬などに、海に流れ込んだ溶岩など奇岩が見られ、磯遊びもできる。利尻山の展望もよい。



仙法志海岸から利尻山を望む

## 山麓や海岸線の景勝地

山麓にある姫沼やオタドリ沼、いくつかあるポン山（ポンはアイヌ語で小さい意）は、爆裂火口の跡や側火山である。利尻山から出る峻険な谷は、山麓ではいずれも広い扇状地を作っていて、山頂部の浸食の激しさを物語っている。雨水が伏流して、川が少ないのもこの島の特徴といえるだろう。その分、湧水は多い。湧水は沿岸の海中にもあり、漁場をうるおしている。



利尻山山頂付近の岩峰



コバイケイソウのお花畑

Information 花の島をめぐるトレッキング

# 礼文島

礼文島で最も人が集まるのは桃岩周辺であるが、ほかにも見どころは多い。  
 稚内から礼文島の香深まで船で1時間55分、利尻島鴛泊から香深まで約40分である。  
 島内は路線バスや定期観光バスがあり、サイクリングもできる。



- 1 カラフトハナシノブ
- 2 エゾイヌナズナ
- 3 キバナノアマナ
- 4 ツルシキミ
- 5 サクラソウモドキ
- 6 ネムロシオガマ
- 7 チシマキンレイカ
- 8 レプトウヒレン
- 9 ハマハタザオ

礼文島  
花図鑑



## 桃岩コース

桃岩は桃のような形の岩で、桃岩展望台から一望できる。マグマが冷えて固まったものであり、表面にはタマネギの皮のような割れ目(板状摂理)が重なっているのが見られる。桃岩展望台までは香深から歩いて行けるが、展望台手前のレンジャーハウスまでは歩道と別に車道もある。桃岩展望台から元地灯台までの西斜面一帯がお花畑となる。トレッキングコースは南端の知床まで続いている。



桃岩コースのお花畑

## 4時間コース・久種湖

スコトン岬は礼文島の北端である。この南から江戸屋山道・ゴロタ岬を經由して、澄海岬を経て、途中レプンアツモリソウの群生地を通り浜中へ戻ることができ、約4時間のトレッキングコースとなっている。随所から見渡せる青く澄んだ海は絶品である。ゴロタ浜は西海岸には珍しい砂浜である。



レプンアツモリソウ

久種湖は砂丘によって海から隔てられた60haほどの湖沼で、南岸に湿原があり、木道が敷かれている。春にはミズバショウ、初夏にはクロユリが咲く。湖畔にはキャンプ場がある。



スコトン岬の展望台

## 礼文岳

礼文岳は標高490mで礼文島の最高峰である。標高は低いが、山頂一帯はハイマツ、ガンコウランなどの低木林で、本州中部の高山帯そのままの雰囲気である。山頂からは礼文島全体が眺められ、サハリンも見える。



ガンコウランの実

## 西海岸

島の西海岸は海食崖が発達しているが、陸上から全貌を見渡すのはむずかしい。元地園地からは、地藏岩、猫岩が展望できるとともに、背後には桃岩がそびえ立つ。波の穏やかな日なら、シーカヤックによる探勝も可能だ。



西海岸を望む(澄海岬とゴロタ岬)



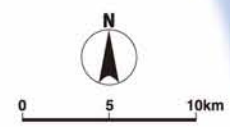
海上から見る桃岩



お花畑の続く4時間コース

# サロベツ原野

サロベツ原野には JR 豊富駅が下沼駅から入る。車の場合は国道 40 号線か海岸の道道稚内天塩線を利用するのがよい。豊富駅から海岸の稚内までは路線バスが走っている。



## 湿原観察ルート

サロベツ湿原センターから延びる木道は、円山を中心に発達した高層湿原を通る。湿原の泥炭の厚さは、深いところで、5~6m ほどあり、夏には満開のエゾカンゾウが見事であるが、ほかにもヒメシャクナゲ、モウセンゴケ、ツルコケモモなど、高層湿原に特有の地表をうように生育する植物たちが見られる。また、ノビタキなど草原にすむ鳥も観察できる。

幌延ビジターセンターの前から木道を歩けば、湿原植物のほか、ネムロコウホネやジュンサイなどの水生植物が見られる。鳥は草原で見られる種類のほか、長沼、ペンケ沼、パンケ沼と周辺の農地には渡りの時期に多くの水鳥が集まる。



エゾカンゾウ咲くサロベツ湿原

## 海岸砂丘と湿地の地形



静かな砂丘林の沼

サロベツ原野と海の間には、砂丘林が広がる。延長 40km にわたって数列の砂丘が海岸線と平行に並び、砂丘と砂丘の間の低地には湿原と小さな池沼が続く、ほかではあまり見られない景観であり、奥深い原始性を感じることができる。稚内内などから林内に入ることができるが、歩道が不明瞭で迷いやすいため、地元ガイド等と散策することをお勧めしたい。



ネムロコウホネ

## 展望地点

稚内から日本海岸に沿って延びる道道稚内天塩線沿線には、夕来や稚内内など、各所により展望の得られる場所がある。また、国立公園区域外であるが、公園の内陸側を通る国道 40 号線沿線にも、豊富町宮の台と幌延町名山台に展望台がある。



サロベツ海岸からの利尻山



夕来展望地

## サロベツ花図鑑



- |              |            |
|--------------|------------|
| 1 タチギボウシ     | 7 サワギキョウ   |
| 2 ミツガシワ      | 8 ツルコケモモ   |
| 3 オオハナウド     | 9 ヒオウギアヤメ  |
| 4 トキソウ       | 10 ノハナショウブ |
| 5 ナガバノモウセンゴケ | 11 エゾリンドウ  |
| 6 エゾノリュウキンカ  | 12 ホロムイイチゴ |

## 厳冬のサロベツ原野

### 最果ての厳しい冬を体験する

この公園を訪れる人は春から夏にかけて多く、真冬に訪れる人は少ない。スノーシューもクロスカントリースキーも、この公園で楽しむ人はまだ僅かである。しかし、厳寒な冬でも自然観察会が開かれている。宗谷暖流のおかげで最低気温は内陸部ほど下がらない。風が弱い穏やかな日には、冬のサロベツならではの自然を見ることができる。



雪原のトレッキング



ケアシノスリ

## 雪の原野を楽しむ

厳冬期のサロベツの気象はことのほか厳しい。吹雪が視界を閉ざし、風が巻き上げる雪のため、何も見えない日もある。

冬の原野を楽しむのは、春の兆しがかすかに感じられるころに時折訪れる、穏やかに晴れた日がいい。スノーシューやクロスカントリースキーを履いて原野を歩けば、雪の上に記された動物たちの足跡から、彼らの活動ぶりを知ることができる。冬を耐える植物たちのようすもわかる。冬を過ぎに来たベニヒワやユキホオジロにも出合えるかもしれない。



クロスカントリーを楽しむ

## 雪晴れの利尻山を望む

雪晴れの利尻山は、夏とはまた異なる荘厳な姿である。サロベツの海岸線を通る道路からは、ぼっかい 抜海、ほまゆうち 浜勇知、むつかさかない 稚咲内ほかどこからでも利尻島が見える。抜海漁港ではゴマフアザ



ベニヒワ

ラシが観察できる。また、サロベツ原野にも、各所にビューポイントがある。お気に入りのポイントを探してみてもどうだろう。



雪晴れのサロベツ原野

# 国立公園のプロフィール

国土の7割が森林に覆われ、亜寒帯から亜熱帯まで多様な環境や動植物に恵まれた日本列島。豊かで美しい日本の自然を代表する地域が国立公園である。

日本の国立公園は昭和6(1931)の制度創設以来、70年余りの歴史を有している。現在、全国で北海道から琉球列島まで、29の国立公園が指定されており、国土の陸地面積の5パーセントを占めている。全国の代表的な自然環境をカバーする国立公園は、自然環境と生物多様

性を保全する日本の保護地域システムの骨格を担っている。

日本の国立公園には、原生的な森林や湿原だけでなく、人と自然の関わりを通じて形成された農耕地や集落周辺の自然、また歴史的、文化的景観も含まれている。さまざまなレクリエーションや観光、教育活動などに利用することも目的としており、地域社会との共存を重視している。

日本の国立公園は、土地所有にかかわらず指定される。公園内の国有地も、多くは公園以外の目的で管理されている。このため、土地所有者を始めさまざまな関係者と産業活動や土地利用の調整を図りながら、自然資源の保護と持続的な利用を両立させていくことが日本の国立公園管理の基本となっている。

国立公園の管理はゾーニングにもとづいて実施されている。公園区域は、自然環境や景観の特性に応じて、最も厳格に保護される特別保護地区、公園区域の主体をなす特別地域、そして緩衝地域としての普通地域の3つのゾーンに区分されていて、樹木の伐採や建設工事など景観に影響を及ぼすような活動は、許可または届出の対象となっている。

国立公園の実地の管理は、環境省の地方環境事務所が地方公共団体などの協力を得ながら実施している。各公園には自然保護官が配置され、開発行為との調整、利用施設の整備、普及啓発・インタープリテーション、自然環境のモニタリングなどの業務に携わっている。



## 日本の国立公園

- |            |           |
|------------|-----------|
| 1 利尻礼文サロベツ | 19 伊勢志摩   |
| 2 知床       | 20 吉野熊野   |
| 3 阿寒       | 21 山陰海岸   |
| 4 釧路湿原     | 22 瀬戸内海   |
| 5 大雪山      | 23 大山隠岐   |
| 6 支笏洞爺     | 24 足摺宇和海  |
| 7 十和田八幡平   | 25 西海     |
| 8 陸中海岸     | 26 雲仙天草   |
| 9 磐梯朝日     | 27 阿蘇くじゅう |
| 10 日光      | 28 霧島屋久   |
| 11 尾瀬      | 29 西表石垣   |
| 12 上信越高原   |           |
| 13 秩父多摩甲斐  |           |
| 14 小笠原     |           |
| 15 富士箱根伊豆  |           |
| 16 中部山岳    |           |
| 17 白山      |           |
| 18 南アルプス   |           |

# 北海道の国立公園



## 1 利尻礼文サロベツ Rishiri-Rebun-Sarobetsu

指定年：昭和49(1974) 面積：24,166ha

日本最北の国立公園。洋上の孤立峰利尻島、固有の植物が見られる礼文島、そしてサロベツ川の河口に広がる広大なサロベツ湿原の三つのエリアから成り、変化に富んだ景観と動植物が特徴である。

●来訪者数：100万人(2008年)



## 3 阿寒 Akan

指定年：昭和9(1934) 面積：90,481ha

日本で最も歴史のある国立公園の一つ。トドマツ・エゾマツの原生林と、火山活動で形づくられた大小の湖が景観の基調となっている。北海道らしい自然の奥深さを感じさせる公園である。活動中の火山もあり、各所に温泉が湧出する。

## 2 知床 Shiretoko

指定年：昭和39(1964) 面積：38,636ha

北海道の東北部に突きだした知床半島の中央部から先端部が指定されている。定住人口はほとんどなく、海と陸が一体となった原始的な生態系が残されており、ヒグマ、オオワシ、トドなどの大型野生動物が息づく。平成17(2005)年に世界自然遺産地域に登録された。



## 4 釧路湿原 Kushiro-Shitsugen

指定年：昭和62(1987) 面積：26,861ha

昭和62(1987)年に指定された比較的新しい国立公園。釧路湿原は釧路川の流域に広がるスゲ類などの低層湿原を主体とした我が国最大の湿原で、タンチョウやイトウなど絶滅のおそれのある野生動物の貴重な生息地でもある。昭和55(1980)年に我が国で最初のラムサール条約の登録湿地となった。



## 5 大雪山 Daisetsuzan

指定年：昭和9(1934) 面積：226,764ha

22万6千ヘクタールの日本最大の国立公園。北海道の屋根となっている2000m級の山並みが連なり、山上には高山植物の大群落が広がっている原始性の高い公園である。ヒグマをはじめさまざまな野生動物のすみかとなっている。



## 6 支笏洞爺 Shikotsu-Toya

指定年：昭和24(1949) 面積：99,473ha

活発な活動を続ける火山とカルデラ湖の景観を基調とする公園で、自然性の高い森林を多く含んでいる。札幌大都市圏に近接し、アクセスが良いため、身近なレクリエーションのフィールドとして多くの人々に親しまれている。



写真：海野孝、大橋年治、小池正一、小林実、小宮山枝里子、佐野勝一、橋智行、洞爺湖温泉観光協会、八木正和、山田良造、百武充、礼文町役場、利尻町役場、(財)自然環境研究センター、(株)北海道アート社、疋田英子